

バンド練習の心得

桜町高校軽音楽部

1. 練習内容を決めてから音を出す

※たとえば「どこのセクション練習をする」のか、「曲を通して全体の音作りをする」のか。行き当たりばったりの練習では中々上達しません。事前にバンドリーダーが決め、メンバーと根本的な意識を共有する必要があります。

2. チューニングに時間を費やす

※弦楽器のプレーヤーなら当たり前のことと思われていますが、意外に合っていません。コツは「ペグを巻き上げながら合わせる」「繰り返し3回は行なう」ことです。弦を交換したときにはオクターブチューニングを確認しましょう。

3. セッティングはなるべく早く

※学校での練習はいつも使っているアンプやミキサー、ドラムです。たとえばギターやベースならば、ジャックを差し込んでスイッチを入れて、いつものメモリに合わせればスタートできるはずです。

4. 演奏する曲ごとに時間を毎回計ってみる

※時間を意識することでリズムキープやバンド全体での呼吸を合わせるトレーニングになります。

5. 耳を休めることも大事

※大きな音の中にいると、人間の耳はすぐに順応し聞こえ辛くなってしまいます。ボーカルは自分の音程を取り辛くなり、楽器隊も音への気配りや集中力が甘くなります。質の高い練習をするためには、1時間ごとに耳を休めることを勧めます。

6. スタジオを出たら必ずミーティングを行なう

※モチベーションの高いうちに次回の練習内容を定めることで、継続性のある練習ができます。